SONY

2006年度

連結業績概要

（2007年3月31日に終了した1年間）

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみに全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できること、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に充分な経営資源を適切に集中させられること、(8)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティー・マネージメント遂行の成否、および(9)ソニーと他社との合弁、提携の成否、などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

FY06 業績ハイライト&トピックス

業績ハイライト

連結売上高は、エレクトロニクス、映画およびゲーム分野の増収により前年度比10%増収となり(L/Cベースでは+7%)、過去最高の売上高を記録。

連結営業利益は、エレクトロニクス分野で大幅な増益、映画分野でも増益となるも、プレイステーション®3(PS3)導入にともなうゲーム分野での損失計上、および金融分野での大幅減益により、全体では前年度比で68%減益。

トピックス



液晶テレビ「ブラビア」は、2006年暦年で液晶テレビの金額世界シェアでナンバーワンを獲得(DisplaySearch調べ)。



© 2006 Columbia Pictures Industries, Inc.
All Rights Reserved.

映画分野では、「ダ・ヴィンチ・コード」や「007/カジノ・ロワイヤル」が大ヒット。5月全世界公開の「スパイダーマン3」は、全世界の公開週末興行収入3億8,200万米ドルの歴代1位の記録を樹立。

当年度、PS3を発売。今後は日米欧全地域でソフトウェアラインアップの充実を図っていく。



© SCEI

ソニー・エリクソンは、ウォークマン®携帯やサイバーショット携帯などの端末の販売好調により、過去最高の販売台数、売上高、当期純利益記録。世界での携帯電話端末製造業界でシェア4位に上昇。



FY06 連結業績

(億円)

	FY05	FY06	前年度比	前年度比(LC*)
売上高および営業収入	75,106	82,957	+10.5 %	+7 %
営業利益	2,264**	718***	-68.3 %	-
税引前利益	2,863	1,020	-64.4 %	
持分法による投資利益(純額)	132	787	+496.9 %	
当期純利益	1,236	1,263	+2.2 %	
1株当り当期純利益(希薄化後)	116.88 円	120.29 円	+2.9 %	
構造改革費用****	1,387	388	-999	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY05	FY06
売上高および営業収入:	約 +2,873 億円	1 ドル	112 円	116 円
営業利益:	約 +921 億円	1 ユーロ	136 円	149 円

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
** FY05 の営業利益には厚生年金基金の代行返上益735億円が含まれる
*** FY06 の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる
**** 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY06 セグメント情報および関連会社業績

（億円）

連結セグメント		FY05	FY06	前年度比	前年度比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	51,764	60,505	+16.9%	+12%
	営業利益	69**	1,567***	+2,167.4%	+880%
ゲーム	売上高	9,586	10,168	+6.1%	+2%
	営業利益（損失）	87	-2,323	-	-
映画	売上高	7,459	9,663	+29.5%	+26%
	営業利益	274	427	+55.7%	+57%
金融	金融ビジネス収入	7,432	6,493	-12.6%	
	営業利益	1,883**	841	-55.3%	
その他	売上高	4,260	3,776	-11.4%	
	営業利益	205**	324	+57.9%	

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
** FY05 の営業利益には厚生年金基金の代行返上益が含まれる（エレクトロニクスは 645億円）
*** FY06 の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる

主要持分法適用会社		4/05 – 3/06	4/06 – 3/07	前年比
ソニー・エリクソン（百万ユーロ）	売上高	7,972	11,892	+49%
	税引前利益	593	1,509	+154%
ソニーBMG（百万ドル）	売上高	4,283	4,101	-4.2%
	税引前利益	150	135	-10.0%

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニーBMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

FY07 連結業績見通し

（億円）

	FY06	FY07 見通し	前年度比
売上高および営業収入	82,957	87,800	+6%
営業利益*	718	4,400	+513%
うち、構造改革費用	388	350	-10%
税引前利益	1,020	4,200	+312%
持分法投による投資利益（純額）	787	800	+2%
当期純利益	1,263	3,200	+153%
設備投資額	4,141	4,400	+6%
うち、半導体投資額	1,500	1,300	-13%
減価償却費**	4,000	4,300	+7%
研究開発費	5,439	5,500	+1%

為替レート	FY06 実績レート	FY07 前提レート
1ドル	116 円	115 円前後
1 ユーロ	149 円	150 円前後

* FY07の営業利益見通しには、旧本社跡地の一部の売却益約 590億円が含まれる（FY06は 217億円の売却益を計上）、また、FY06の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる
** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む

FY06 構造改革進捗報告

	目標数値 (FY07末まで)	FY05 実績	FY06 実績	FY05 + FY06 実績
連結営業利益率 *	5%	3.9%	1.9%	-
エレクトロニクス営業利益率 *	4%	1.4%	4.1%	-
コスト削減(億円)**	2,000	380	1,370	1,750
製造拠点統廃合	65 のうち 11	9	0	9
✓ モデル数削減 ***	-20%	Base Year	-20%	-20%
✓ 人員削減	10,000	5,700	6,300	12,000
✓ 資産売却(億円)	1,200	780	1,230	2,010

進捗状況は予定通り

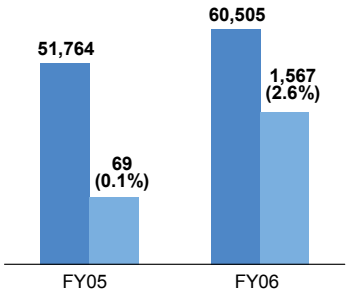
✓ 目標達成

* 営業利益率:営業利益率は構造改革費用、代行返上益とノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当てを除く
** 累積コスト削減
*** モデル数削減:FY05(Base year)に対するFY06の削減比率

FY06 エレクトロニクス

(億円)

売上高および営業利益



	前年度比	(LC)
売上高	+16.9%	+12%
営業利益	+2,167.4%	+880%

FY06業績

売上高: 16.9%増加(外部顧客向け売上:13%増加)

増収: 液晶テレビ「BRAVIA<ブラビア>」、PC「バイオ」
デジタルカメラ「サイバーショット」
減収: ブラウン管テレビ

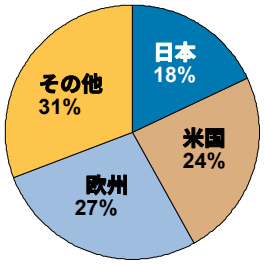
営業利益: 1,498億円増加

(+)要因: 外部顧客向け売上増、為替
(−)要因: 販売費・一般管理費の増加

構造改革費用: 374億円計上(前年度 1,258億円)

セグメント間取引を含む / LC:現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

FY06 エレクトロニクス地域別売上



営業収入を除く
外部顧客に対する売上
53,552 億円 +13% (LC +9%)

日本: +7%
- 増収: 携帯電話端末、液晶テレビ
- 減収: 低温ポリシリコン液晶ディスプレイ、PC「バイオ」、ブラウン管テレビ

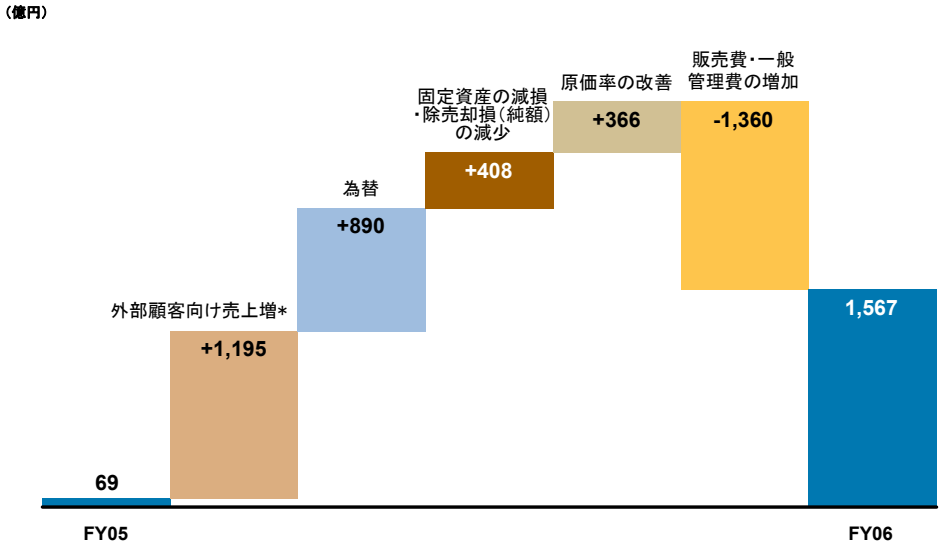
米国: +8% (LC +4%)
- 増収: 液晶テレビ
- 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ、ブラウン管テレビ

欧州: +24% (LC +15%)
- 増収: 液晶テレビ、PC「バイオ」
- 減収: ブラウン管テレビ、ビデオカメラ

その他: +14% (LC +9%)
- 増収: 液晶テレビ、デジタルカメラ
- 減収: ブラウン管テレビ

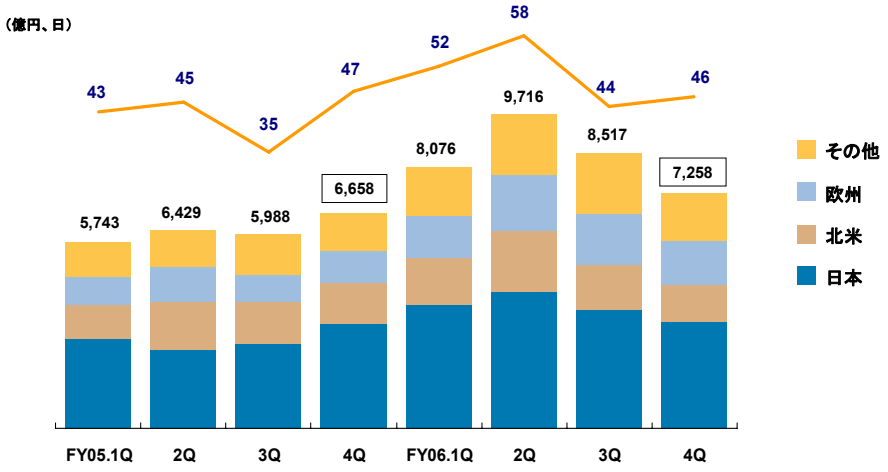
円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC:現地通貨試算ベースの伸び率

FY06 エレクトロニクス営業利益増減要因



* 外部顧客向け売上に対する粗利増

エレクトロニクス連結棚卸資産（地域別）



- 7,258億円（前年度末比 600億円の増加。2006年12月末比では、1,258億円の減少）

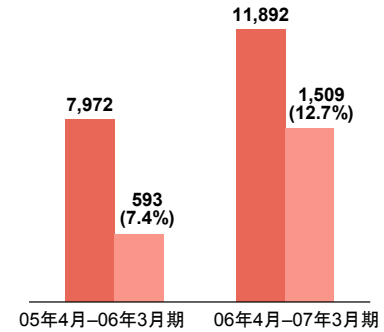
棒グラフ：棚卸資産（億円単位）
折れ線グラフ：棚卸資産回転日数（期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上）
FY05.1Qの在庫回転日数は、ビジネス別セグメント区分の変更に合わせて修正再表示されています。

ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ

持分法適用会社

（百万ユーロ）

売上高および税引前利益



	前年同期比
売上高	+49%
税引前利益	+154%

06年4月–07年3月期業績

売上・利益ともに過去最高を更新

- 売上高は49%増の118億9,200万ユーロ、税引前利益は154%増の15億900万ユーロと、ともに過去最高を更新。
- 販売台数は前年同期比で51%増加の約8,330万台。
- 主に、ウォークマン®携帯、サイバーショット携帯が業績に貢献。

ソニーへの影響額：持分法による投資利益は約3倍増の853億円

ソニー持分への影響額

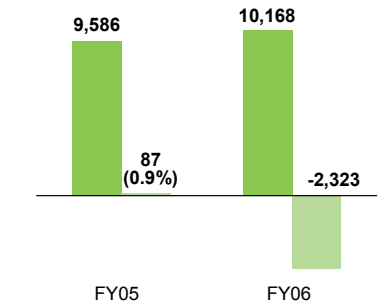
	05年4月-06年3月期	06年4月-07年3月期	前年比
当期純利益（百万ユーロ）	427	1,142	+168%
ソニー持分への影響額（億円）	290	853	+194%

税引前利益下の（%）は税引前利益率

FY06 ゲーム

（億円）

売上高および営業利益（損失）



	前年度比	(LC)
売上高	+6.1%	+2%
営業利益（損失）	-	-

FY06業績

売上高:
- PS3の発売によりセグメント全体で増収。
- ハードは増収、ソフトは減収。

営業損益:
- 主に、PS3において導入期の製造コストを下回る戦略的な価格設定での販売による損失が発生したことにより、大幅な損失計上。

棚卸資産額:
- 1,988億円
- 主にPS3が日米欧全地域で展開されたことにより前年同期末比および前四半期末比で増加。

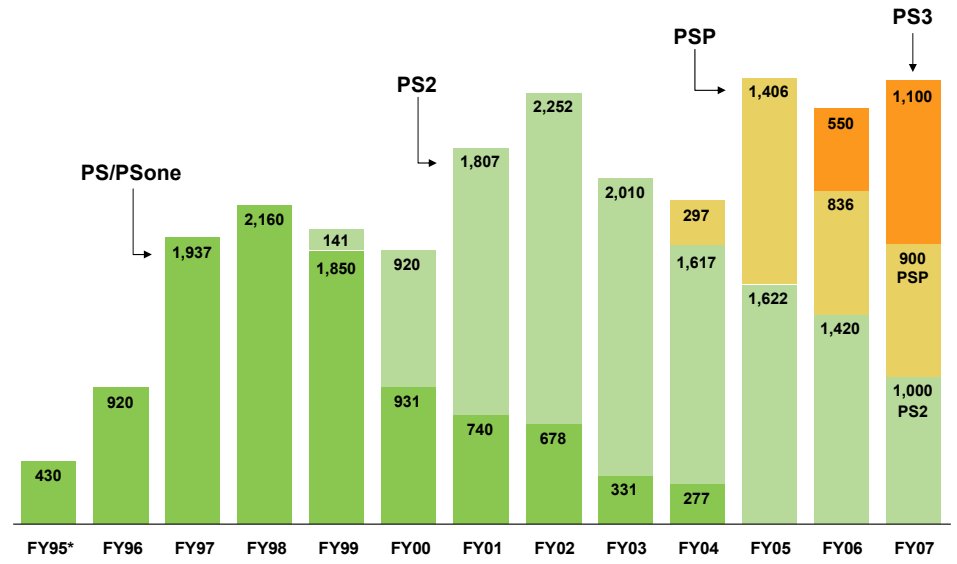
生産出荷台数

		FY05	FY06	前年度比
ハード（万台）	PS2	1,622	1,420	-12%
	PSP	1,406	836	-41%
	PS3	-	550	-
ソフト（万本）	PS2	22,300	19,300	-13%
	PSP	4,160	5,410	+30%
	PS3	-	1,320	-

セグメント間取引を含む / LC：現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の（%）は営業利益率

PlayStation ハード生産出荷台数＆見通し

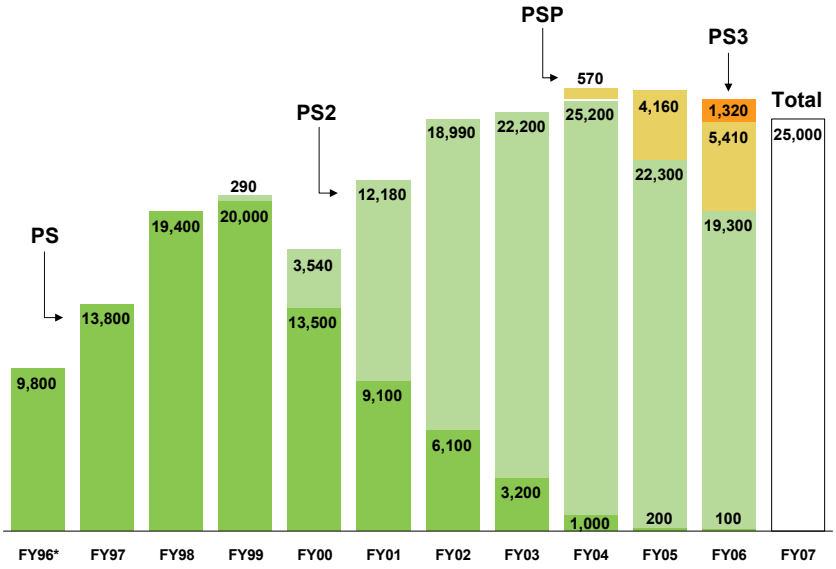
（万台）



*FY95は94.12月から96.3月までの累計

PlayStation ソフト生産出荷本数＆見通し

（万本）

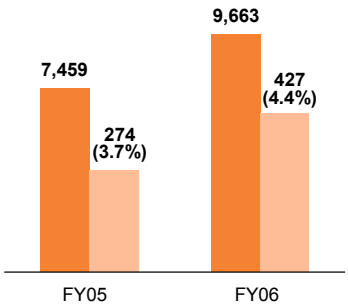


*FY96は94.12月から97.3月までの累計

FY06 映画

（億円）

売上高および営業利益



	前年度比	(US$)
売上高	+29.5%	+26%
営業利益	+55.7%	+57%

FY06業績

売上高：30%増加、米ドルベースで26%増加

- 主に、当年度に公開した「ダ・ヴィンチ・コード」、「007/カジノ・ロワイヤル」、「もしも昨日が選べたら」、「Talladega Nights: The Ballad of Ricky Bobby」、「幸せのちから」などの映画作品の劇場興行収入やDVDソフトの売上が大幅に増加。
- テレビ番組の売上も、主に米国外のいくつかの番組配信事業において広告収入や受信料収入の増加により増収。

営業損益：56%増加、米ドルベースで57%増加

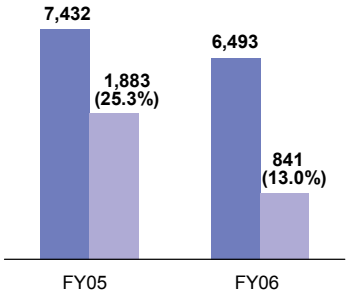
- 上述の通り、当年度に公開された映画作品の収入が大幅に増加したことにより全体として増益。
- テレビ番組関連については、前年度にはライセンス契約延長による利益貢献があったことに加え、当年度にいくつかの新番組に関する制作費や広告宣伝費を計上したことにより減益。

セグメント間取引を含む / US$：SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の（%）は営業利益率

FY06 金融

（億円）

金融ビジネス収入および営業利益



	前年度比
金融ビジネス収入	-12.6%
営業利益	-55.3%

FY06業績

金融ビジネス収入：ソニー生命の減収により、13%減収

- ソニー生命の収入：15%減少
  （－）要因：一般勘定および特別勘定の評価益などが減少
  （＋）要因：保険料収入が増加

営業利益：ソニー生命の減益により、55%減少

- ソニー生命の営業利益：57%減少
  （－）要因：一般勘定における転換社債の評価益などが減少
  （＋）要因：保険料収入が増加
- ソニー損保、ソニー銀行のビジネスは順調に推移

ソニー生命の業績

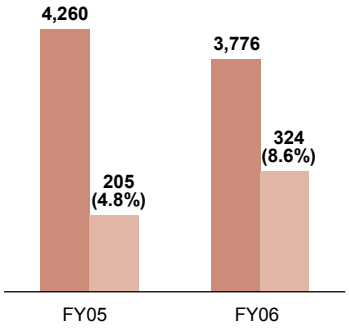
	FY05	FY06	前年度比
収入 （億円）	6,450	5,451	-15%
営業利益 （億円）	1,884	817	-57%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の（%）は営業利益率

FY06 その他

（億円）

売上高および営業利益



	前年度比
売上高	-11.4%
営業利益	+57.9%

FY06業績

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

売上高：前年度比11%の減収

- 主に、リテール事業が連結対象外となったこと、およびSMEJの減収などによる
- SMEJ
  - 減収は、主に前年度にSMEJが行っていたソニーのディスク製造事業に関わるビジネスを他のセグメントに移管したことによる
  - 当年度の売上貢献作品：CHEMISTRY「ALL THE BEST」、伊藤由奈「HEART」、アンジェラ・アキ「Home」

営業利益：58%増益の324億円

- 主として、前年度に米国の娯楽施設売却にともなう資産の除売却損を計上していたことによる

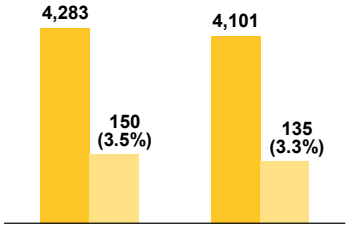
セグメント間取引を含む / 営業利益下の（%）は営業利益率

ソニーBMG・ミュージックエンタテインメント

持分法適用会社

（百万ドル）

売上高および税引前利益



05年4月–06年3月期 06年4月–07年3月期

	前年同期比
売上高	-4.2%
税引前利益	-10.0%

税引前利益下の（%）は税引前利益率

06年4月–07年3月期業績

売上高は4%減少、税引前利益は10%減の1億3,500万米ドル

- 売上高：全世界でパッケージメディア市場縮小が加速し、デジタル音楽配信売上の拡大でこれを吸収しきれなかったことなどにより減収。
- 当年度の貢献作品：Justin Timberlakeの「FutureSex/LoveSounds」、ビヨンセの「B'Day」、Il Divoの「Siempre」、Christina Aguileraの「Back to Basics」など。
- 税引前利益：減収により全体として減益となったが、音楽業界に関わる訴訟の和解金を得たこと、構造改革費用および間接費用の減少により、減益は一部相殺。
- 税引前利益には、構造改革費用1億4,000万ドルが含まれる（前年同期比4,500万ドルの減少）。

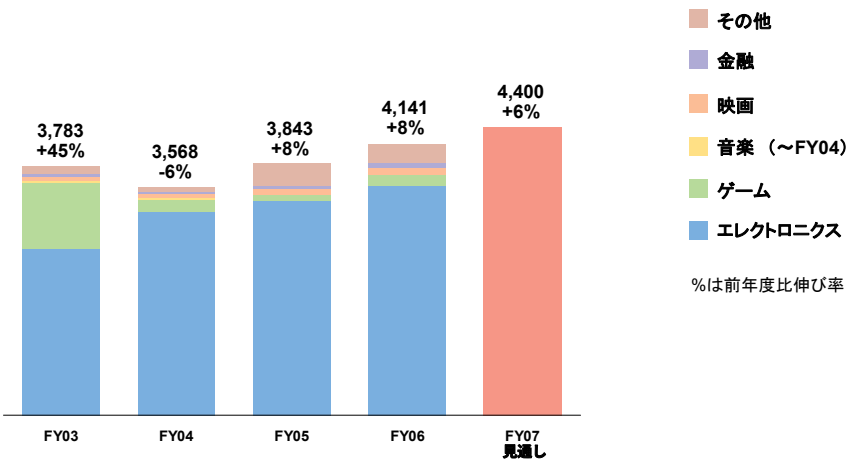
ソニーへの影響額：持分法による投資利益は50億円

ソニー持分への影響額

	05年4月-06年3月期	06年4月-07年3月期	前年比
当期純利益（百万ドル）	95	84	-12%
ソニー持分への影響額（億円）	58	50	-14%

FY07 設備投資額見通し

（億円）

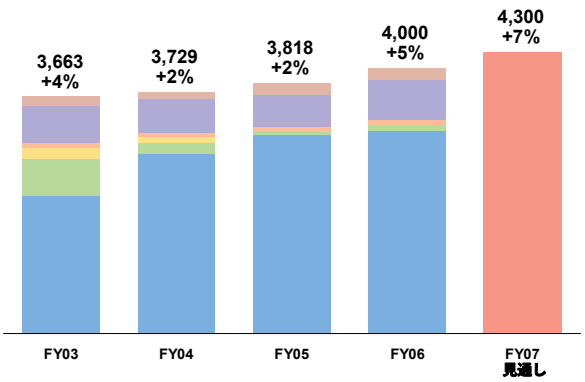


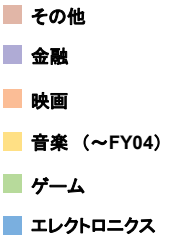
%は前年度比伸び率

- FY07設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,300億円（前年度1,500億円）

FY07 減価償却費および償却費見通し

（億円）



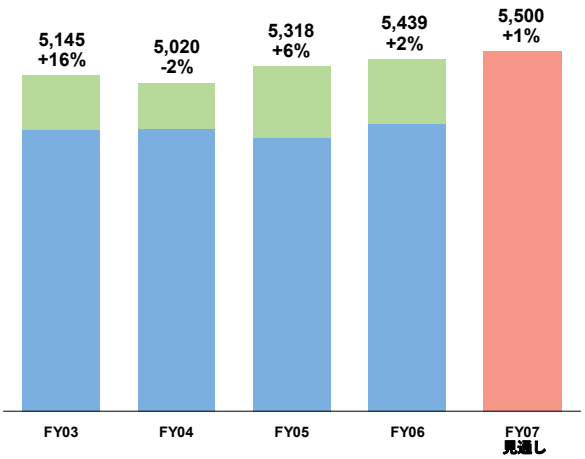


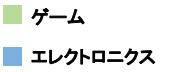
%は前年度比伸び率

- FY07減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,500億円（前年度3,158億円）

FY07 研究開発費見通し

（億円）





%は前年度比伸び率

FY06.4Q 連結業績

（億円）

	FY05.4Q	FY06.4Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	18,557	20,896	+12.6 %	+9 %
営業損失	-519	-1,134	-	-
税引前損失	-479	-1,057	-	
持分法による投資利益（純額）	54	123	+129.3 %	
当期純損失	-665	-676	-	
1株当り当期純損失（希薄化後）	-66.48 円	-67.44 円	-	
構造改革費用**	753	231	-522	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY05.4Q	FY06.4Q
売上高および営業収入:	約 +728 億円	1 ドル	116 円	119 円
営業利益:	約 +179 億円	1 ユーロ	139 円	155 円

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
** 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY06.4Q セグメント情報および関連会社業績

（億円）

連結セグメント		FY05.4Q	FY06.4Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	12,232	15,275	+24.9%	+20%
	営業損失	-816	-741	-	-
ゲーム	売上高	1,524	2,812	+84.6%	+75%
	営業損失	-614	-1,078	-	-
映画	売上高	2,404	2,864	+19.1%	+17%
	営業利益	302	329	+9.0%	+6%
金融	金融ビジネス収入	2,231	1,842	-17.4%	
	営業利益	793	295	-62.8%	
その他	売上高	1,066	995	-6.7%	
	営業利益（損失）	-89	54	-	

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

主要持分法適用会社		1/06 – 3/06	1/07 – 3/07	前年比
ソニー・エリクソン（百万ユーロ）	売上高	1,992	2,925	+47%
	税引前利益	151	362	+139%
ソニーBMG（百万ドル）	売上高	864	807	-7%
	税引前損失	-36	-37	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニーBMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です